

(様式1)

「地域・企業等と連携した PISA 型読解力向上事業研究指定校」実績報告書(3年次)

1 学校名等

学 校 名	舞鶴市立白系中学校				校長名	松林 周一郎	
研究主題	PISA型読解力と非認知能力の向上を図る。 ～PISA型読解カールブリックの活用を通して～						
研究の目的	「予測が困難な時代」を主体的に生き抜くためには、適切に情報を読み取り、活用する力(PISA型や非認知能力)の育成が求められるため、本研究主題を設定し、「評価・熟考する能力」の視点を加え、文章を評価したり、根拠を明確にした自分の意見を説明したりすることができる生徒の育成を目指す。						
学 年	1年	2年	3年	特別支援	合計	教職員数※校長・教頭を含む	
学 級 数	4	5	4	3	16	36	
生 徒 数	154	163	145	14	476		

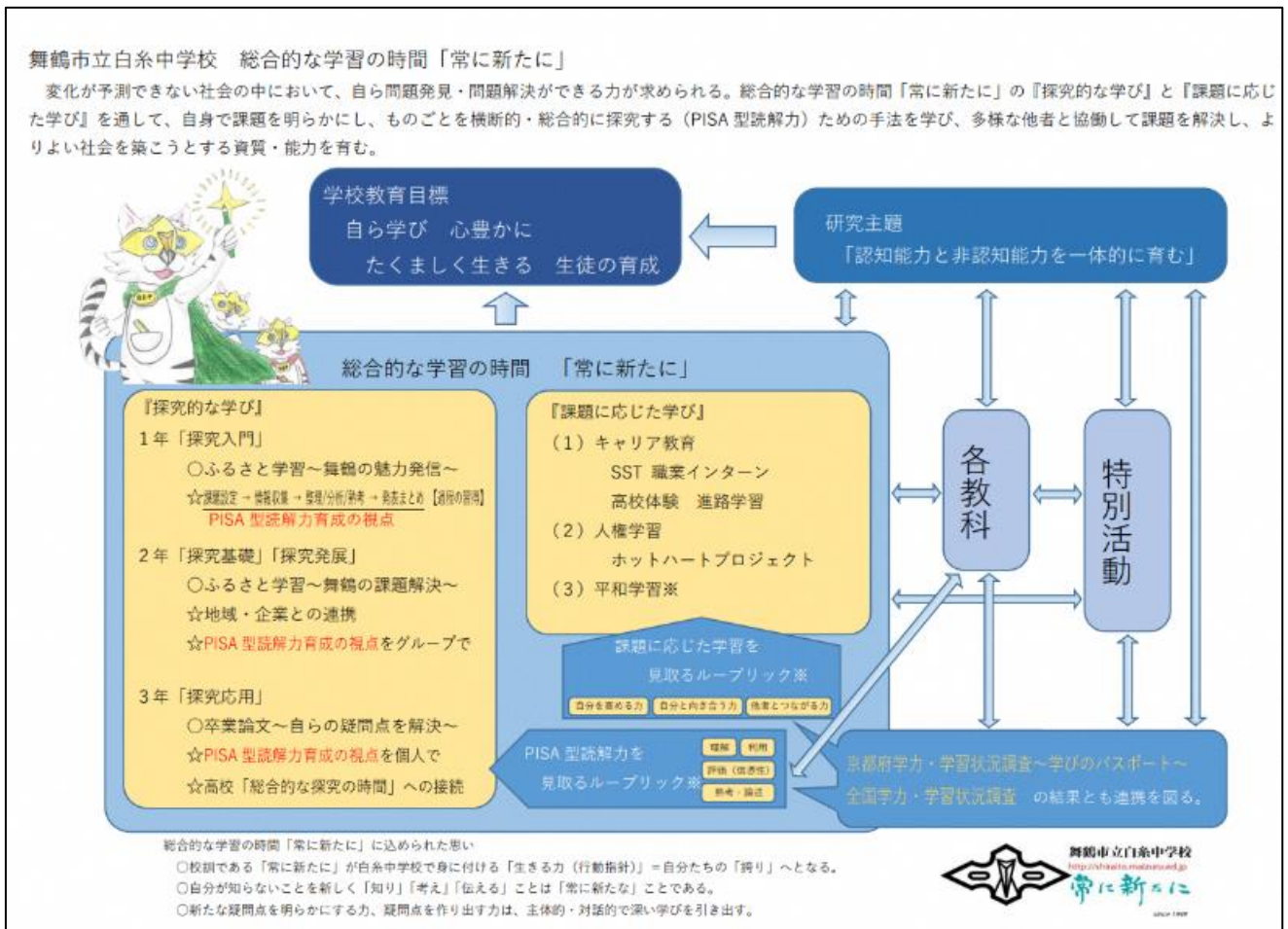
2 研究校の概要(生徒の実態、学力状況(分析)、研究体制等)

【研究体制】

「研究推進部」本研究の中心となって研修を推進する。

- ・校長 … 渉外
- ・教頭 … 渉外・研究計画等
- ・教務主任(研究主任) … 立案・資料作成・提案等
- ・各学年主任 … 具体的な探究活動計画等

※ 年度当初に総合的な学習の時間のイメージ図を全職員で共有した。(下図)



3 主な研究活動(時期や内容等)

舞鶴市立白糸中学校 総合的な学習の時間「常に新たに」
『探究的な学び』PISA型読解力を見取るルーブリック

資質・能力	レベル4 (AA)	レベル3 (A)	レベル2 (B)	レベル1 (C)
【読解】 グラフと文章を関連させ、データを読み取る力	複数のグラフと文章を対応させ、正しくかつ多角的にデータを読み取ることができる。	複数のグラフと文章を対応させ、正しくデータを読み取ることができる。	1つのグラフと文章を関連させ、データを正しく読み取ることができる。	1つのグラフと文章が示す内容を正しく読み取ることができる。
【活用】 必要な情報を伝えるための図表を作成する力	集めたデータをもとに、より効果的なグラフと文章を作成することができる。	集めたデータをもとに、適切なグラフと文章を作成することができる。	集めたデータをもとに、1つのグラフを作成することができる。	1つのグラフを作成することができる。
【評価(自己評価)】 様々な情報の内容を評価する(判断)力	グラフと文章が示す内容を多角的かつ適切に評価して(見極めている)。	グラフと文章が示す内容を適切に評価して(見極めている)。	グラフと文章が示す内容を評価して(見極めている)。	グラフと文章をそれぞれ評価している。
【熟考・論述】 文章や図表を用いて探究を話し、自身の考えを表現する力	文章や図表を適切に用いて探究を話し、自身の考えを表現することができる。	文章や図表を適切に用いて探究を話し、自身の考えを表現することができる。	文章や図表を用いて、自身の考えを表現することができる。	文章や図表を用いて、自身の考えを表現することができる。

舞鶴市立白糸中学校 総合的な学習の時間「常に新たに」
『課題に応じた学び』を見取るルーブリック

組	資質・能力	レベルAA	レベルA	レベルB	レベルC	自己評価 評価項目
自分と関係する力	自らの「疑問点(問い)」を作り出す力	課題に対する多角的に自らの「疑問点(問い)」を作り出すことができる。	課題に対する多角的に自らの「疑問点(問い)」を作り出すことができる。	課題に対する多角的に自らの「疑問点(問い)」を作り出すことができる。	課題に対する多角的に自らの「疑問点(問い)」を作り出すことができる。	読解力 評価 批判性 創造性 協働性
	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる力	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	
自分と関係する力	自分と関係する力	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自己効力感 自信 自律性 協働性 批判性 創造性 協働性
	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる力	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	
自分と関係する力	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる力	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	読解力 評価 批判性 創造性 協働性
	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる力	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	自分の意図や感情を適切に表現し、相手に伝達することができる。	

舞鶴市立白糸中学校 総合的な学習の時間「常に新たに」

評価シート

評価項目	エキスパート (特別) 4点	プロフェッショナル (専門) 3点	セミプロ 2点	ビギナー 1点	1	2	3	4	5
◎課題設定 【読解】→【活用】	その課題、すばらしい。その課題、わがやい。その課題、わがやい。その課題、わがやい。	その課題、わがやい。その課題、わがやい。その課題、わがやい。その課題、わがやい。	その課題、わがやい。その課題、わがやい。その課題、わがやい。その課題、わがやい。	その課題、わがやい。その課題、わがやい。その課題、わがやい。その課題、わがやい。					
◎データ作成 【活用】の力	そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。	そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。	そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。	そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。そのオリジナルの表やグラフ、素晴らしい。					
◎熟考 【熟考】の力	すばい、その課題について。その課題について。その課題について。その課題について。	その課題について。その課題について。その課題について。その課題について。	その課題について。その課題について。その課題について。その課題について。	その課題について。その課題について。その課題について。その課題について。					
◎伝え方 【発表】の力	すばい、その課題について。その課題について。その課題について。その課題について。	その課題について。その課題について。その課題について。その課題について。	その課題について。その課題について。その課題について。その課題について。	その課題について。その課題について。その課題について。その課題について。					
合計得点									

質疑の視点です◎

- ・自分たちの考えと同じで「ここ」に共感するなど・・・
- ・このプレゼンテーションの「ここ」が解れているなど・・・
- ・このプレゼンテーションの「ここ」をちょっと詳しく知りたいなど・・・

講師の視点は？！

1.2.3月目標
切磋琢磨
～ねばねば粘ってレベルアップ～

1月のテーマは「コツコツ」
2.3月のテーマは「高める」です

【教科・時期】
・特別活動/1月
【単元】
テーマ：コツコツ
【目標】
・自分の目標に向かって、計画を立て粘り強く取り組むことができる
【評価する資質・能力】
・自らの目標と関連付けた計画を立てる力
・自らの「疑問点(問い)」を作り出す力

本年度は、「教員用」ルーブリック(左上図)を総合的な学習の時間における教師の見とる規準として、「生徒用」ルーブリック(左下図)を生徒同士の相互評価として、それぞれ継続して活用し、検証していくことを確認した。また、課題に応じた学びを見とるルーブリック(右上図)と特別活動の取組(右下図)をリンクさせ、目標と評価する資質・能力について方針を共有した。

【企業・地域連携】

5月19日(金)	4限 2年生総合的な学習の時間 「地域・企業と連携した探究活動について」の説明、アンケート実施の説明	
6月8日(木)	2年生総合的な学習の時間 京都市校外学習 大学生へアンケート調査	  
8月28日(月)	9月8日「出前講座」事前打合せ (舞鶴市移住・定住促進課 地域おこし協力隊員:原田様、2年主任:四方)	
9月8日(金)	2.3.4限 2年生総合的な学習の時間「出前講座」 「アンケートデータの活用について」 (地域おこし協力隊員:原田様)	 

12月14日(木)	4限 2年生総合的な学習の時間 中間発表に向けて授業参観とアドバイス(地域おこし協力隊員:原田様)	
12月21日(木)	3.4限 2年生総合的な学習の時間「常に新たに」の『探究的な学び』中間発表会 参観と指導助言(原田様から生徒へ) (地域おこし協力隊員:原田様、府教委:中村指導主事、中丹局:嶋田指導主事、 市教委:前田指導主事)	
		   
1月18日(木)	地域の企業との交流(地域の活性化を探る)の打合せ (地域おこし協力隊員:原田様、2年主任:四方)	
2月9日(金)	放課後 2年生総合的な学習の時間「地域の企業との交流(地域の活性化を探る)」 (大滝工務店:大滝様、ICA ダンススクール:福村様、ウッディーハウス:猪野様) ※ グループごとに質問に行く	
2月13日(火)	放課後 2年生総合的な学習の時間 「地域の企業との交流(地域の活性化を探る)」 (地域おこし協力隊員:原田様) ※ グループごとに質問に行く	
2月14日(水)	放課後 2年生総合的な学習の時間 「地域の企業との交流(地域の活性化を探る)」 (地域おこし協力隊員:原田様の奥様) ※ グループごとに質問に行く	
2月16日(金)	放課後 2年生総合的な学習の時間 「地域の企業との交流(地域の活性化を探る)」 (泉食品店:泉様) ※ グループごとに質問に行く	
2月21日(水)	1年生総合的な学習の時間「プレゼンテーションの聞き方」についての打合せ (市教委:前田指導主事、研究主任:近藤、2年生主任:四方)	
2月22日(木)	1年生総合的な学習の時間「プレゼンテーションの聞き方」について依頼と打合せ (オムロン:猪尾様、市教委:前田指導主事、研究主任:近藤)	
3月13日(水)	3.4限 1年生総合的な学習の時間 「プレゼンテーションの聞き方」について (オムロン:猪尾様、中丹局:嶋田指導主事、市教委:前田指導主事)	
3月14日(木)	3.4限 1年生総合的な学習の時間 「プレゼンテーションの聞き方」について(オムロン:猪尾様、市教委:前田指導主事)	
		  
3月19日(火)	3.4限 2年生総合的な学習の時間 「常に新たに」の『探究的な学び』最終発表会 13ブースで3~4グループに分かれ、ワールドカフェ方式で行う予定。 10のブースで4~5グループで最終発表し、1年生が発表会に参加する。 1年生は、13.14日に学んだことを活かし、質問していく。 (地域おこし協力隊員:原田様、府教委:針尾指導主事、中丹局:嶋田指導主事、 市教委:前田指導主事)	

3月21日(木)	4限 1・2年生総合的な学習の時間「発表会のまとめと次年度へ」 1年生は、今年度作成したリーフレット「舞鶴市 AtoZ」を活用してまとめをして、次年度の舞鶴市の課題解決に向けての探究活動へイメージを持ち、実際の目標設定時にもリーフレットを活用する。2年生は、今年度の取組の振り返りを行い、3年生での個人探究「あなたが思い描く舞鶴市の未来」につなげる。 今年度の学びの成果を広めるために、校区の小学校や地域へリーフレットを配布する。
----------	---

4 今年度の成果と検証(児童生徒、教職員、学校、家庭・地域社会の変容等)

- (1)身近な地域の企業に質問することで地域の需要の変化等の情報を得ることができ、地域経済の現状や将来の展望について、より具体的に理解を深め、地域について考えることができた。
- (2)自分たちでデータを集め、根拠を明らかにしながら情報を活用することで、説得力のあるものになり、グループで熟考する時間に改善が見られた。
- (3)昨年度課題であった、「プレゼンテーションを聞く際の聞き手の意識」について、事前に学習を行うことができた。
- (4)教師が同じ視点で生徒の学習状況を評価するために、ルーブリックの有用性を強く感じた。ルーブリックを通して、教師同士の会話がより具体的になり、生徒への適時のフィードバックにつながっている。また、課題に応じた学びを見とる視点を特別活動の月別目標とも関連付けることで、それぞれの活動や取組が形骸化せず意味のあるものにつながっている。
- (5)8月23日(木)白系中学校区小中一貫研究会で、府教委指導主事より、京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の分析について研修を受け、結果をもとに学力の伸びと非認知能力の相関関係等から、個別や学級、学校の特長を分析して、個別の手立てを検討し、支援目標を立てた。

5 今年度の課題

企業と連携し、学習の成果を自分たちでアウトプットすることで、探究課題に意欲的に取り組み、生徒たちが自らの考えを発信する機会を得ることができた。今後、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力をさらに高め、アウトプットしていく必要があると感じた。また、プレゼンテーションを聞く際には、注意深く聞く姿勢を持ち、自分の理解を深めるために積極的に質問をする、話し手に気付きを与える質問をする等、聞き手に必要な力をさらに身に付けていかねばならない。

6 研究成果の活用について

企業と連携して探究課題に取り組むことで、自らの考えを発信する機会を得ることができた。話し手については、相手が納得できるよう発表する具体的なポイント(例右図)を学ぶことができ、生徒の将来にも確実に繋がると感じている。また、自分たちでデータを集め、そのデータを活用してプレゼンテーションを行うことで、根拠を明らかにしながら説得力のあるものとなった。自らの考えを明確に表現し、他者と意見を交流する貴重な機会を得ることができた。聞き手についても、新しいアイデアや視点を受け入れ、他者の意見を尊重する態度を身に付けることができた。今後は、単に取組の成果を発表するだけでなく、各教科でも探究的な学びやアウトプットする機会を作っていきたい。

来年度に向けては、自分たちでデータを集め、根拠を明らかにしながら情報を活用する力、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力をさらに高め、自らの考えを発信する機会を作っていく。また、中間発表の際には、3年生が聞き手になり、昨年度自分たちが取り組んだ経験を生かして2年生にアドバイスし、2年生はそのアドバイスをもとにブラッシュアップしていく。1年生は、最終発表会で2年生と交流し、プレゼンテーション能力を高めていくとともに、質問や感想を述べ、コミュニケーション能力を高めていく。

今後も「予測が困難な時代」を主体的に生き抜くためには、信頼性のある情報源を見極め、情報を適切に読み取り、評価し、活用する力(PISA型読解力や非認知能力)の育成が求められる。今年度は、自らの考えを検証し、分析する段階までたどり着くことができなかったため、次年度は、検証を含めた課題解決型の学習にも取り組み、引き続き、コミュニケーション能力、自己管理能力の育成も大切にしていく。その中で、「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の結果や検証をもとにした指導方法や支援の在り方を共通理解し、学校や学年で組織的に取り組めるようにしていきたい。

<h3 style="text-align: center;">目指す姿</h3> <p style="text-align: center;">【アドバイス】 将来=2030年にどのような姿を目指したいか?</p>
<h3 style="text-align: center;">未来の課題</h3> <p style="text-align: center;">【アドバイス】 「現状の問題」から読み取れる未来の姿 と 目指す姿のGAPをどうやって埋めるか? ○Oする必要がある、○Oを向上する、とかクリアする方法を書く</p>